

新町家のすすめ 建築実例 物件情報シート

建物名：紫野の家

建物写真



建物概要

行政区：京都市北区

建築年：令和2年10月

敷地面積：(任意) 126.53 m²

建築面積：(任意)

延べ面積：(任意) 101.06 m²

構造：木造

階数：2階建て

本体価格：(任意)

建築主：(任意)

設計者：トヨタヤスシ建築設計事務所

施工者：株式会社竹内工務店

設計コンセプト・ポイント

京都市北区紫野、昔ながらの織屋建て等の京町家が残る地域に完成した新築住宅です。左官仕上げ(リシン掻き落とし)の外壁に、杉板、格子を合わせ、軒裏は30mm厚の杉板を現しにし準防火地域対応の仕上げとしています。紫野の家は、省エネ、温熱環境に配慮した、気密工法の家です。寝室は土壁となっており、蓄熱、断熱、調湿性という優れた機能を取り入れています。出来るだけ自然素材に囲まれて生活がしたいとのご要望を取り入れ、内装は無垢木材、薫入りの珪藻土で仕上げました。材料一つ一つを丁寧に選ばれ、お施主さまのこだわりがたくさん詰まった心地の良い木と左官の空間になりました。

※掲載されている建築実例は、新町家パートナー事業者が考える京町家の知恵を取り入れた住まいの事例です。

該当する指針の欄に、具体的な内容を記入してください(取り入れていない指針の欄は空白で可)

指針1 まちに暮らす ～隣地の状況を踏まえて建物配置を計画する～



- 隣接・近隣敷地と調和した建物や空地の配置計画とする(指針 1-1)
 - ・京町家が多く残る街並みに調和するよう、建物正面には石畳のような雰囲気のアプローチスペースを確保し、東側にガレージを配置、道路と並行に建物のラインを近隣と揃えています。
- 開口部の位置などに配慮する(指針 1-2)
 - ・隣接建物からの視線が気にならないよう、建物側面の窓は小さめに、道路からの視線が気にならないよう、道路に面した建物正面 1 階は足元の高さで開口を設けるなどしています。

指針2 場所になじむ ～地域特性や歴史を踏まえて設計する～



- 地域の特性や歴史を把握したうえでデザインする(指針 2-1)
 - ・京町家の多く残る街並みに調和するよう、外観に格子のデザインを取り入れ、屋根は切妻平入としています。
 - ・アプローチに石を使用し、石畳の路地のような雰囲気になっています。
- 設備機器をファサード側に設置しないなど、配置場所で工夫する(指針 2-3)
 - ・給湯器、室外機等は建物奥の側面に配置し、門に格子建具を設置することで、道路から見えにくくしています。

指針3 季節や自然を楽しむ ～季節や自然を楽しめるよう工夫する～



- 風や光、自然が感じられる庭を設ける(指針 3-1)
- 落葉樹等、季節を感じられる植物を植える(指針 3-1)
 - ・アプローチのシンボルツリー、ヒメシャラは梅雨の時期に花を咲かせ、秋には紅葉するので、季節を楽しめます。
- 風の通りを確保した間取りとする(指針 3-3)
 - ・建具には引き戸を採用し、開け放てば気持ちの良い風が通り抜けます。
- 壁・床・屋根・窓などを適切に断熱する(指針 3-3)
 - ・壁、床、屋根面には断熱材を充填し、サッシは断熱性能の高いアルミ樹脂複合サッシを採用しています。

※掲載されている建築事例は、新町家パートナー事業者が考える京町家の知恵を取り入れた住まいの事例です。



サンルーム

■ 季節に応じた日射コントロールを行う(指針 3-3)

・大屋根、下屋ともに軒を深くし、日射のコントロールをしています。

■ 縁側やサンルームなど、温熱環境上のバッファゾーンを設ける(指針 3-3)

・2 階の南西にサンルームを設け、隣に土壁の個室を配置しています。冬場はサンルームの熱を土壁の部屋に送り込む仕組みになっています。

指針4 大切に使う ～大切に長く使い続けられるよう工夫する～



ステンドグラス入り建具

■ 肌に直接触れる部分に自然素材を使う(指針 4-2)

■ 経年変化を楽しめる工夫をする(指針 4-3)

- ・内装床材には無垢の栗材、杉材を使用しています。
- ・内壁は珪藻土にスサと珪砂を合わせた左官仕上げです。

■ 古建具を活用する(指針 4-5)

- ・ステンドグラスの入った古建具を、建物に合わせ調整し、使用しています。

■ 再活用にも耐えうる良質な素材を使ったり、寸法に配慮する(指針 4-5)

- ・造作材、内装材に国内産杉材、桧材等をはじめ自然素材を多く使用し経年変化を楽しめるようになっています。
- ・個室や造作家具の木製建具は同じデザインで統一されています。
- ・リビングの内障子として伝統的な意匠の組格子の障子を使用している。

指針5 和の技を感じる ～伝統技術・技能をいかす～



寢室

■ 木格子、木製建具を採用する(指針 5-1)

- ・外観には木製格子を採用しています。
- ・玄関建具は木製で造作しています。
- ・軒裏は、30ミリ厚の杉板を現しで仕上げています。

■ 内壁を土壁や漆喰や珪藻土仕上げとする(指針 5-2)

- ・寝室は土壁とし、調湿、保温、断熱性等、優れた機能を取り入れています。

■ 畳を採用する(指針 5-2)

■ 障子を採用する(指針 5-2)

- ・畳の個室を設け、リビングの一部には障子を使用しています。



和室



リビングの太鼓張りの障子